秋高同窓会だより

題字は第六代塩田会長

発行者
秋田県立
秋田高等学校同窓会
秋田市手形字中台一番地
TEL 018（832）9553
URL http://www.akitahs-ob.gr.jp/
印刷 ㈲三浦印刷

平成14年度予算案 了承
130年記念事業を推進
＝第1回理事会＝

平成十四年度の第一回理事会が、六月二十七日（木）午後六時から秋田市の榮太楼旅館において開催された。理事会には約八十人の理事が出席し、会務報告、決算報告、予算案、百三十周年記念事業案、役員の改選などを審議し、いずれも原案どおり了承した。

理事会では、丸山健会長の挨拶に続いて、高橋幸臣校長が、今年から学校週五日制となり土曜日が休みなので一週間が短く感じられる。全県総体では、柔道、山岳で優勝、剣道が準優勝、硬式野球の甲子園大会予選も活躍が期待される。大学進学率は例年並みだが、生徒会や部活動などで活躍した生徒が、入れる大学ではなく、入りたい大学へ進学しており文武両道を受け継いでいると述べた。

次いで、丸山会長を議長として、平成十三年度ならびに今理事会までの会務・事業報告、各常置委員会・特別委員会の報告が行われた。

財政委員会は、十三年度の会費納入は、会員の協力などにより前年度を上回った。しかし、支出の節減などの面からも数年間に一度も会費納入のない会員への同窓会だよりの送付を止めてはどうかなどの意見があると報告。

広報委員会は、提言と随想を柱としている。百三十周年記念事業については特集を順次掲載していく。

名簿委員会は、第三十八号としてB5版、九二〇ページ、四千部の発行を予定している。同窓会のコンピュータから直接データを取りだして印刷するのは初の試みなので、業者の選定など慎重に取り組む。

校史委員会は、記念誌についてはすでに執筆を始めており、来年七月末の完成をめざしている。先覚顕彰誌は、タイトルを「先蹤録」とし、第三次として五人を追加した。

施設委員会は、女子運動部トレーニング場の建設は県からの許可を受けており、来年五月いっぱいで完成させたいなどの報告を行った。

議事では、一般会計、募金会計、名簿会計決算について審議し、原案どおり了承した。

続いて、平成十四年度の事業計画案などが提案された。

一般会計案の総額は、千九百二万六千四百四十円で、生徒が少なくなったことによる入会金の収入減などで前年度より減額となっているとの説明があった。

百三十周年記念行事計画は、募金目標額が三千五百万円で六月末までに一千八百人余りから寄付が寄せられており、記念誌の発行やピアノ購入、式典、祝賀会などの事業を行うことが報告された。

今年度で三年の任期満了となる役員については、百三十年記念事業の推進にかかわっていることから、丸山健会長ら全員が留任と言うことで承認された。監事は、貝田悦男、三浦禮司の両氏が退任、小玉康延氏が再任、北都銀行常勤監査役の久米田和太朗（S38年卒）、秋田経済研究所理事の進藤利文（S40年卒）の両氏が新任された。

総会のご案内

平成14年度の総会を左記により開催致しますので、万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さいますようご案内致します。

日　時　平成14年8月18日（日）午後2時
場　所　アキタニューグランドホテル
記念講演　岩崎雅典氏（昭和34年卒・映画監督）
演題「ヒマラヤに幻の雪豹を追う」
懇親会　午後4時30分（会費　5000円）
※一般会員で出席ご希望の方は、お手数でも同窓会事務局（☎018―832―9553）にご一報下さるようお願い致します。

平成14年度 年会費納入のお願い

本年度の同窓会費の納入につきまして、下記のとおりお願い申し上げます。

1．年会費　2,000円
　原則として単年度分
　郵便振り込み
2．高校卒業後4年間は免除されます。
　（平成11年度卒以降）

口座番号　02500-6-54147
加入者名　秋田県立秋田高等学校
　同窓会会長　丸山　健

提言

秋田県の誕生と県人気質

久保田城址歴史案内の会
副会長　石川裕久（昭和33年卒）

秋田は、鰐田という文字で斉明天皇時代に阿倍比羅夫が蝦夷征服のため鰐田（あぎた）、渟代（ぬしろ）の地に赴くと日本書記に見られる。聖武天皇時代には、秋田と呼ばれていた。秋田とは稲の実った田という意味である。

蝦夷の襲撃に備え高清水ヶ岡に築いた城を秋田城と呼び統治する者を秋田城介と称した。安東実季（湊安東氏）が鈦命により秋田城介に任じられた大名としては最後の人であった。佐竹義宣の入部と入れ替わりに常陸宍戸五万石に転封。その後、陸奥国三春（現在の福島県三春町）に移されそこで秋田氏と名乗った。

大和国、河内国といった国々は大化改新から天武朝の頃までに朝廷が領域を定めた事から始まる。一六〇二年の佐竹義宣の入部は出羽国秋田であった。その国が羽前、羽後国に分割されたのは明治になってからである。

大名領地を藩と呼んだのは一七〇二年新井白石が全国の大名の系譜を「藩翰譜」として集大成したのが始まりである。明治政府は廃藩置県までの間、諸大名の要請により藩名を用いて統治した。その際朝廷に対し大名を忠勤藩、朝敵藩、日和見藩に分け、特に九つの忠勤藩については歴史と伝統に支えられた藩名をつけ、県名とする方針をとった。

岩崎県があり、それらを合併し明治四年十一月二日誕生したのである。一道三府四十三県は明治二十一年末。東京が府から都になったのは昭和十八年である。秋田の歴史と伝統を尊重し命名した先人を偲び秋田の名を誇りと自信を持って後世に伝えていかねばならないと思う。

一つの国の性格を表す言葉に「お国がら」がある。秋田県は、粘り強い性格の中にも明るく、人が良く、人を遇する事が好きな事で際立ったお国がらと評されている。これは、北前船による関西人との交流、佐竹の入部と常陸からの移住による秋田人との同化、さらに、恵まれた自然環境、天然資源、米等による良好な経済状況がもたらしたのかも知れない。現実は、木材の衰退、鉱山資源枯渇、米の減反政策、企業倒産と失業者の増加、少子高齢化、県財政の危機等秋田は幾多の問題を抱え込みながら、酒の消費量、着膨れ好み、新築住宅関連の大きさ等消費に関しては常に全国の上位に、そして、一人当たりの県民所得額や貯蓄額は下位に位置づけられている。

豊かな秋田、住み良い秋田は、恵まれた自然、歴史と文化の伝承、人々の気配り、そして、人材の活用と育成に支えられ始めて実現できるもの。

新しもの好き、ええふりこき、リーダーシップ不足、村社会から抜け切れない人柄等と言われ続けてきた県人気質が、新生秋田の実現に無意識の中に阻害要因となってはいないだろうか。先ずは自らそれ等を乗り越えるマインドと勇気が大切と思うものである。

祝叙勲

大塚秋大名誉教授に
勲三等旭日中授章

この春の叙勲で、大塚一雄氏（昭和17年卒）が教育研究功労で勲三等旭日中授章、貝田和孝氏（昭和23年卒）が農林水産行政事務功労で勲四等旭日小授章、宇佐美悦郎氏（昭和25年卒）が環境衛生功労で勲五等瑞宝章、三森美直氏（昭和15年卒）が地方自治功労で勲五等瑞宝章を授与されました。また、秋高旧職員の山岡雄平氏が教育功労で勲四等瑞宝章を授賞しています。

大塚一雄氏は、秋田大学名誉教授で、昭和三十九年から同大鉱山学部教授、六十年から四年間学部長を務めました。

貝田和孝氏は、昭和二十三年に農林省に入り、富山、北海道の各食糧事務所長を務めました。現在は埼玉県白岡町住。

宇佐美悦郎氏は、県環境衛生協会理事、県クリーニング環境衛生同業組合理事長などを務めています。

三森美直氏は、教職を経て鳥海町の教育長、収入役などを歴任したあと、昭和六十一年から町長を三期十二年務めました。

山岡雄平氏は、昭和四十一年から五十一年まで秋高教諭を務め、仁賀保高校長、県教育センター長、秋田北高校長、和洋高校長を歴任しました。

天上天下

「しにせデパートが経営破たん」「元秘書をあっ旋収賄罪で逮捕」。新聞やテレビが報じる見出しはこれが通常である。「老舗」は表外音訓であり、破綻の「綻」、斡旋の「斡」は常用漢字に含まない表外字だからである。▼新聞、テレビの表記は一般的に、一九八一年に内閣が告示した常用漢字（一九四五字）の使用を原則としている。たったこれだけの漢字ですべての事象を伝えようとするのだから、漢字かな混じりの頻度が高くなるのは仕方がない。▼そこで「破綻」や「斡旋」など頻出する漢字、熟語に限りルビなしで使用を認めるメディアが次々に出始めている。▼「冤罪」「拉致」「堆積」「腫瘍」「凱旋」「崖崩れ」などもそのまま使えるようにしたのは、「えん罪」や「ら致」では一字一字に意味を持つ表意文字としての漢字の存在理由が失われる結果、日本語そのものの蓋然性が揺らいでしまうという危機感の発露である。▼漢字には一字ごとに音読みと訓読みが存在するという文字自体がもつ特殊性があり、その数も優に六千を超えるとなると、一般的な意志伝達手段として使用するには多すぎて一定の制限はやむをえない。しかし、現在の常用漢字だけでは著しく意志の疎通を欠くこともまた事実だ。▼漢字かな混じりの氾濫はかえって、正しい日本語の理解を阻害する。「旅館のおかみ」では着物姿でてきぱきと立ち回る女将のイメージは思い浮かばない。「努力のたまもの（賜・賜物）」も、重々しさに欠けていただけない。メディアの用字用語に対する積極的な取り組みが、この国の漢字かな混じりの混乱を救う近道のような気がしてならない。

本校に赴任して

教頭　目黒大作（昭39卒）

会員の皆様におかれましては、益々ご壮健にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

ご縁をいただき平成七年より十三年まで本校に勤務、本年度より教頭として再度赴任させていただきました。生徒として、教員として母校に関わり、又今回は今までと違った立場での着任と、あらためて、その任の重さに覚悟を新たにしている所であります。

思いおこすと、私は母校によって鍛えられてきたものと思っております。教職に付くと同時に剣道部の顧問となりました。以来私は母校剣道部の存在を常に心に意識しながら、それを乗り越えようとすることで完全燃焼をしてきたように思われます。

あらためて、母校の存在、剣道部の存在の大きさ、確かさに感謝いたしております。多くの人が大なり小なりこのような思いを持っているのでないでしょうか。

さて、今教育現場はかってないほどの転換期を迎えております。完全学校週五日制がスタートし、加えて明年より新学習指導要領の施行、大学入試・五教科七科目実施などの大きな変革であります。

秋高は一時も立ち止まることは許されないし、逆に変化に適切に対応することが求められております。

不透明な時代こそ改革を進取するパワーで、「品性の陶冶」、「学力の充実」「心身の錬磨」といった本校の基本理念を今日的価値あるものとして、再認識していく時かと思います。

このような大切な時期、浅学非才の身でありますが、校長先生の指導のもと、全職員の熱意ある教育活動がみごとに結集、開花できるよう微力ながら懸命に努力する所存であります。昔から「火を点けさえすれば、必ずお湯が沸く」と申します。この気持を大切に実践してまいりたいと思います。

百三十周年を目前にしたこの時期に赴任いたしましたのも縁あってのことと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

母校に再び赴任して

教頭　岡野文秀（昭41卒）

この度の異動で、十年振りに勤務することになりました。しばらく見ない間に、ウグイス坂の桜は花の回廊をつくり、ツツジは斜面一面にその彩りを添えるようになりました。あらためて、月日の経つ早さに驚かされます。

さて、先日大曲支部の同窓会に出させていただきました。時代を越えて秋中・南高・秋高時代を語る同窓生の方々にお会いし、その学校を思う熱意に感激してまいりました。同窓会は卒業生にとって、活力の源になっているという気がいたしました。これからも同窓会の皆様からご指導、ご協力をいただきながら、更に充実した学校づくりに微力を尽くしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

ところで、私は秋高にこんなにもお世話になることになるとは思ってもみませんでした。地学部の活動を中心に過ごした高校時代、教えることで精一杯、余裕のなかった講師時代、旧校舎・仮校舎・新校舎といろいろ学習環境が変わる中でクラス担任として充実した時間を持つことのできた九年間と、さまざまな形でかかわってきたことになります。

久しぶりに母校に勤め数カ月になりますが、生徒の行事に取り組む姿は昔と変わらず意欲的で全エネルギーを注ぎ込んで頑張っています。ところが変わったことがあります。それは、遅刻者が減り、校内の清掃が行き届き、学校が大変きれいになったということです。学習環境が整い、引き締まった秋高ができつつある気がいたします。

今、このようにやる気に満ちた生徒と一緒に伝統ある母校に再び勤務することができることを幸せに思っています。そして、故鈴木健次郎校長先生の言われた『汝なんのためにそこに在りや』との問いかけに、今自分が秋高のために何をしなければならないのかをよく考え、全力で頑張る所存です。これからもよろしくお願いいたします。

随想

インターネット時代の交流

(株)東芝メディアソリューション事業部　理学博士　加賀谷聡（昭和54年卒）

二千年に開催された九州・沖縄サミットでのデジタル・ディバイド（情報格差）の議論や、二千一年に策定されたe-Japan戦略（IT国家戦略）などの動きとともに、近年、情報通信基盤の整備が進み、インターネットが、大学・企業・官公庁などのみならず、家庭にまで目覚ましい速さで浸透して来ている。

それを肌で感じるのは、お正月。ここ数年、受け取る年賀状を見ると、差出人の電子メールアドレスを目にする機会が増えてきた。職場のメールアドレスに限らず、個人でインターネット・サービス・プロバイダに加入して取得しているメールアドレスもよく見かける。年賀状の添え書きをきっかけにして、その後すぐに、メールアドレスを頼りに、パソコンに向かって友人と「会話」を続けることができる。封書や葉書と比べて敷居が低く、照れや億劫さなくコミュニケーションできる。最近は、そうやって温めている、秋高時代の友人との旧交がたくさんある。

小生は、情報技術の研究開発や市場調査の仕事をして、約十五年になる。最近は、がむしゃらに自分の専門分野の勉強をしてきた時期を過ぎ、自分とは異なる分野で仕事をしている人達との交流が相対的に重要な意味を持つ年齢になってきたと感じている。盆正月の帰省時には、各界で仕事をしている友人と再会し、仕事のやり方、組織運営の仕方、情報社会に対するニーズなどを議論することを楽しみにしている。そういう交流を広げる上で、インターネット上に構築されている秋高同窓会（注1）や秋高東京同窓会（注2）などのウェブページが役立っている。ここには、昭和・平成××年卒の有志が構築しているウェブページが結び付けられていて、実用度が高まってきている。

また、一昔前だと、就職・結婚・転勤などの際に、友人に住所変更を伝えるタイミングを逸してしまうと、もう連絡を取れなくなってしまったということが往々にしてあったが、最近では、こうして途切れてしまった交流さえも、インターネットを利用して復活できることがある。例えば、ヤフー（注3）とかインフォシーク（注4）などの著名な検索エンジンに「今頃、どうしているだろうか」と思う友人の名前を入力して検索すると、その友人の近況が掲載されているウェブページを見つけられることがある。大学の先生をしていたり、会社を経営していたり、ジャーナリストとして活動していたり。各界での同窓生の活躍を目にするのは嬉しいものである。時には仕事とは関係なく、ご夫婦揃って、あるいは、お子さん達も一緒に家族みんなで近況や趣味を公開しているウェブページを見つけることもある。そこに紹介されている事柄を話題にしながら、電子メールで連絡を取ったこともある。

「こちらの世界」では消息を知ることが難しくても、「あちらの世界」では、大小さまざまなアンテナを立てて情報発信していて、比較的容易に「再会」できることがある。ここに、インターネットを使った交流の面白さがある（akira.kagaya@toshiba.co.jp）。

注1 www.akitahs-ob.gr.jp
注2 www12.big.or.jp/~shuko-ob
注3 www.yahoo.co.jp
注4 www.jnfoseek.co.jp

同窓会監事異動

退任　三浦禮司　S25
退任　貝田悦男　S30
再任　小玉康延　S31
新任　久米田利太郎　S38
新任　進藤利文　S40

久米田氏は現在北都銀行常勤監査役、進藤氏は秋田経済研究所理事事務局長。

平成13年度校内人事異動

▼退職

教諭　升屋文夫
教頭　伊勢日出夫（秋田西高校長）
教頭　佐藤勇一（合川高校長）
教諭　小野一巳（秋田中央高校教頭）
教諭　榎豊（生涯学習課副主幹）

▼転出（転出先）

教諭　田中道夫（秋田工業高校）
教諭　小野巧（保健体育課指導主事）
教諭　渡部公雄（秋田中央高校）
教諭　石黒みどり（秋田工業高校）
教諭　佐藤浩一（御所野学院高校）
教諭　安田浩幸（金足農業高校）
教諭　伊東光喜（秋田北高校）
教諭　伊藤真（秋田中央高校）
教諭　松山茂樹（御所野学院高校）
教諭　煤賀卓也（羽後高校）
事務長補佐　奥山京（秋田東高校事務長補佐）

▼転入者（前任校）

教頭　目黒大作（金足農業高校教頭）
教頭　岡野文秀（本荘高校教頭）
教諭　北條範雄（秋田北高校）
教諭　伊藤敏郎（由利高校）
教諭　和田央（秋田南高校）
教諭　中山大一郎（能代西高校）
教諭　原田義久（増田高校）
教諭　武田秀雄（県立博物館学芸主事）
教諭　佐藤幸彦（平成高校）
教諭　佐賀薫（秋田西高校）
教諭　山城崇（秋田東高校）
主事　伊藤恵理子（県立図書館）

平成13年度卒業生の進路状況報告

進路指導主事　佐藤健公

今年度からの学校週五日制やH16年度入試のセンター試験5教科7科目の実施決定、また、大学側では独立行政法人化が具体化してきた。大きな変革を前にした現行課程終盤の大学入試であった。

H14年度入試の全国的な特徴は次の通りである。①センター試験の志願者が60万人を超え、5—6型の平均点が二年連続でダウンした。②超トップ校への志願者が減少し、安全志向、特に地元の国公立大学への志向が強まった。③東京・東海地区で志願が減少し、隔年現象も顕著になった。④「文系」学部で志願者の大幅増、「工」「家政・生活科学」系の不人気⑤中堅私立大学のセンター利用の合格率が上がった。⑥女子大の易化などである。

今年度の本校の卒業生は昨年度とほぼ同じ396名である。四年制大学の合格者は国公立及び管外で183名、私立大学は205名である。また、進学者はそれぞれ167名、82名となっている。進学志望者に対する合格率は約70%、進学率は65%と例年より若干下がっている。

本校生の主な合格者数は別表（**三面に掲載**）のとおりである。国公立大学で昨年度に比べて増減のあった主なものは、東北24（+5）、千葉13（+3）、東京5（+3）、東京外語5（+3）、金沢4（+3）、秋田県立3（+3）、北海道7（−2）、秋田（医）7（−4）、新潟15（−5）などである。例年同様、首都圏志向、難関大・学部への志望者が相変わらず多い。東北大の志願者が73名と一昨年並みに戻った。ただ、志望者が多い医学部は現役・過卒とも、例年以上に厳しいものであった。

私立大学はより首都圏志向が強い。全国的に二年連続で志願者は増加し、二極化はさらに進行したが、本校生が受験する大学は「難化安定」である。こうした状況の中で、本校生は健闘したと言えよう。増減のある主なものは、青山学院14（+4）、慶應義塾10（+3）、専修7（+6）、明治14（+2）、学習院2（−4）、中央14（−2）、東京女子4（−7）、東京理科6（−2）、法政11（−3）、早稲田6（−15）、立命館1（−8）などである。難関私立大学の合格者数では、東北地区でも上位に位置している。

H15年度入試では、国立大学を失敗して浪人すると、翌年度入試からは入試科目の負担が増すことから、特に文系生を中心に安全志向がさらに加速すると予想される。また、大学の再編・統合なども具体性を帯びてきた。入試を含めた大学側の変革や、教育課程の切り替えも視野に入れながら、今後とも生徒の第一志望達成に向けて学年部との連携を深めていきたい。

《企画展・高橋宏幸展に寄せて》

「心に太陽を…」

同窓会企画委員　秋山秀昭（昭39卒）

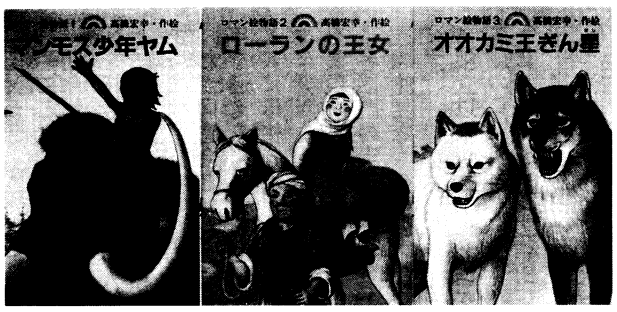
「あなたのような方は、ぼくの周りにはゴロゴロいます。手術後五年、十年と経つうちに、皆さんは元気を取り戻していますよ。いわば、現代病ですな。医学を信じて、焦らずにゆっくりご静養下さい。」私が昨年夏、胃癌で入院した際、高橋宏幸先生から頂いた見舞状。お人柄がよく表れている。

先生は文武両道の人。母校在学中は柔道部の猛者だった。昭和十三年の講道館全国大会、昭和十五年の学生連盟主催全国大会団体戦で何れも準優勝している。学歴は秋田鉱専機械科卒。それが一転、児童文芸作家として大成した異色の人物である。

特筆すべきは、郷里の由利郡東由利町に平成四年創設した『高橋宏幸賞童話秋田県コンクール』。保育、幼稚園児及び小学生を対象に、感想画と感想文の二部構成で作品を募るものである。応募者は年々増加、近年は四千点を超え、毎回傑出した作品が誕生している。児童文学の普及、発展に貢献したとして、平成十三年秋田県文化功労者に輝いている。

世は混沌とし、青少年の自主自律の醸成が問われている。巨きな未来を担う子供達の頭を耕し、希望の灯を点してきた先生の功績は大きい。

今回の展示も若い力の台頭を期待してのことである。代表作の一つ『ロマン絵物語①マンモス少年ヤム』の後書きには「心に太陽を…」とある。



羽城館企画展

九回目を迎えた今年の羽城館特別企画展は、児童文芸作家の高橋宏幸氏（昭和15年卒）にご協力頂きました。ふるってご参観下さるようご案内致します。

高橋宏幸展

期日　七月七日～九月一日
　　午前九時～午後五時
　　（但し、日曜祭日は休館になります）
場所　羽城館

事務局より

http://www.akitahs-ob.gr.jp/
秋高同窓会ホームページ

IT時代の流れで本同窓会でも平成十二年にホームページを開設しました。開設にあたっては、株式会社スタッフの北川豊彦氏（昭45卒）、株式会社秋田ケーブルテレビの土方博生氏（昭45卒）よりご協力いただきました。

その後平成十三年からは、同窓会事務局で独自に関係記事を取材、編集、構成し、約一週間ごとに更新アップロードしております。内容は秋田高校に関する写真を多く掲載しており、母校をなかなか訪れることのできない同窓の方々に少しでも学校生活の雰囲気をお伝えできれば、と思っております。掲載記事も広報委員会等で精選してはおりますが、まだまだ内容的には満足できるものではないと思っておりますのでお気付きの点やご意見、ご感想等がございましたら、Eメール等で事務局までお知らせください。

歴史に見る秋高の人物像

田所哲太郎

二つの博士号をもつ大学人

「秋田北盟寮」の生みの親

郷土地理学のパイオニア小田内通敏の甥にあたる田所哲太郎は、明治十八年（一八八五）九月二十七日に銀行員田所直道の長男として秋田市で誕生した。

保戸野尋常小学校時代は勉強や読書が大好きであった反面、身体が虚弱で、小使いさんに送られて帰宅したこともあると述懐している。そうしたことが、後年、田所がスポーツに関係し、晩年に到れるまでボディビルに親しむ素地をつくったようである。

明治三十七年に秋田中学を卒業した田所は、内村鑑三や新渡戸稲造らの思想家を輩出した札幌農学校に憧れて同校予科に進み、さらに東北帝国大学農科大学（現在の北海道大学は一時このように呼ばれていた）農芸化学科に進学する。そして、四十三年に銀時計組の一人として卒業すると同時に同大学の助手として研究生活に入り、翌四十四年には助教授に昇格した。

大正七年（一九一八）から二年間、田所はシカゴ大学の化学学科、物理学科に留学するが、滞米中、アメリカの学生たちが寮生活によって大学生活をエンジョイしているのを見てとり、帰国後、札幌に学生寮を建設する運動に取り組む。

田所のそうした努力によって大正十二年八月に竣工したのが「秋田北盟寮」で、これは、何度か改築を経ながら平成十年の閉寮まで存続した。この間に六百数十人を世に送り出したが入寮者の半分以上が秋田中学・秋田高校の卒業生であった。北盟寮を巣立った学生のうち三十名が北大など、国内外の大学の教授になっているという。

田所は秋田寮の生みの親であると同時に育ての親でもあり、郷土の学生に対する慈愛に満ちた思いやりから、現職の秋田高女（現秋田北高）教諭石橋常世を寮母に迎えて情操教育に取り組んだのも、未だに関係者の語り草になっている。

北大における田所のような人物が東北大にはいなかったと、今でも時おり東北大学の関係者から漏れ聞こえたりするのも、むべなるかなと言えようか。

二つの学位

さて田所は、当時、寒さには強いが味がいま一つと言われていた北海道産米の改良に取り組むなかで、米タンパク質の化学構造の違いに注目、この研究によって大正八年にまず農学博士の学位を取得し、十年には、三年前に誕生していた北海道帝国大学の教授に昇進する。

その後田所は、植物細胞のニカワ質の研究に没頭し、その研究成果によって昭和三年（一九二八）に今度は理学博士の学位を取得、二つの博士号をもつ大学者となったのであった。

大正が終わって昭和と改元されたころ、東京、京都、東北、九州、北海道と五つの帝国大学があったが、このうち理学部が設置されていたのは、東京、京都、東北の三大学だけであった。

北大にも理学部をという気運が高まり、その設置運動が活発に展開されていた頃の昭和四年、パリにおいて理学部教授候補者会議というものが催され、田所はそれに出席するが、その折り、踊り子の絵を買って帰り、理学部会議室に飾った。

後年、雪博士として有名な中谷宇吉郎北大教授をして、踊り子の絵を会議室に掛けている大学は、日本では北大の理学部だけでしょう。このような闊達な雰囲気から良い研究が育つのです。と言わしめたと伝えられている。

ちなみに、その絵は、現在も教授会が開かれる会議室に飾られているという。

昭和五年、北大に理学部が創設されると同時に田所は農学部から理学部に配置転換となり、翌年三月には理学部長に選ばれて、草創期の六年間北大理学部の基盤確立のために尽力する。

学内における各種施設設備の充実のほか、昭和六年には厚岸臨海実験所、八年には室蘭海藻研究所を発足させるなど、北海道と関わりの深い分野の研究施設の充実にも意を用いた。

また郷里の同窓で親友の大森町出身アラビア太郎こと山下太郎から、戦前、莫大な資金の提供をうけて、理学部そばに山下生化学研究室を設立して、多くの弟子を教育したのも記憶に残るところである。

話はさかのぼるが、田所が秋田中学に在学中、イギリス帰りの武田千代三郎知事が、オックスフォード大学の古いボートを買い取り秋田中学でボートレースを試演させた。たまたまこの時、田所がトップを漕いだ。その経験が、田所が北大理学部長時代にボート選手を育てることにつながり北大は今でもボート競技の強い大学として知られている。

その後、田所は北大のスケート部長、アイスホッケー部長なども務め、日本スケート連盟の副会長職に就いたりしている。

昭和二十四年定年退官となり、これら多くの研究功績に対して北海道大学名誉教授の称号が与えられた。

北海道開発の偉大な功労者

太平洋戦争後の昭和二十四年、北海道学芸大学（現北海道教育大学）が設立されると田所は初代学長に選ばれ八年間その職を務める。

北教大を退いた後、帯広畜産大学の学長に選任されて北海道の主要産業の一つである畜産の研究と技術の向上に貢献、さらに三十八年には北海道女子短期大学の学長に就任して女子教育にもあたった。

持ち前のアイディアを次々と実行に移して大学の整備充実に努力するなど、北海道の教育、科学発展、人材育成に果たした田所の功績はきわめて大きなものがある。

田所はまた、みずからもその創立のために尽力した日本農芸化学会や日本生化学会の評議員を務め、さらに日本化学会会長、北海道科学普及協会会長等にも就任して、学界の発展にも寄与するところ大なるものがあった。田所のこうした幅広い功績に対しては、勲二等旭日重光章（昭和四十年）、北海道文化賞（同四十一年）、北海道開発功労賞（同四十八年）などが贈られている。

田所は自分に勇猛な精神を育ててくれたのは北海道だと語っているが、第二の故郷であるその北海道で田所が没したのは昭和五十五年三月二十日である。秋田中学同窓の医師に見守られ、愛用したフランス仕立てのタキシード姿で旅立った。享年九十四歳であった。故人の意思により、葬儀は宗教にとらわれずに簡素に執り行われたが、式中は絶えずベートーベンの「英雄」第二楽章が流されたほか、故人が晩年愛した民謡「秋田おばこ」も紹介されて、参会者一同、故郷を遠く離れて黄泉路に旅立った故人の気持ちを偲んだという。

平成13年度 大学合格者数一覧表（おもな大学）

大学名	現	過	計	大学名	現	過	計
北海道	7	2	9	信州	2	3	5
弘前	4	1	5	京都	1	3	4
岩手	9	1	10	広島	1		1
東北	24	5	29	東京都立	1	1	2
山形	5	1	6	横浜市立	2		2
秋田(教)	12	2	14	秋田県立	3	1	4
秋田(医)	7	5	12	国公立計	182	58	240
秋田(工)	5		5	青山学院	14	4	18
福島	2		2	学習院	2	3	5
茨城	3		3	慶應義塾	10	13	23
筑波	4	1	5	上智	2	1	3
宇都宮	4	1	5	国際基督教	1	1	2
埼玉	4	2	6	中央	14	13	27
千葉	13	3	16	津田塾	5		5
東京外語	5	2	7	東京女子	4	1	5
東京	5	2	7	東京理科	6	7	13
東京学芸	6	1	7	日本	6	5	11
東京工業	2	1	3	法政	11	7	18
一橋	1	1	2	明治	14	11	25
お茶の水	2	1	3	立教	5	3	8
横浜国立	8	2	10	早稲田	6	22	28
新潟	15	3	18	立命館	1	6	7
金沢	4	2	6	私立計	205	165	370

秋高百三十周年記念事業

先覚顕彰誌発行、ピアノ寄贈、女子運動部トレーニング場建設、その他

秋田県立秋田高等学校 創立百三十周年記念事業 募金趣意書

拝啓　同窓の各位におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、母校秋田高等学校は、来たる平成十五年九月一日を以て創立百三十周年を迎えることになります。先に各位のご協力を得て百二十周年を祝い、校史資料館（同窓会館）が竣工されるなどいよいよ充実発展を続け、ここに記念すべき年を迎えようとしております。

明治六年の創立以来、常に伝統を守りつつ新しい時代を拓き、幾多有為の人材を生み、なお躍進発展の途上にあることは、各位と共に同慶に堪えないところであります。

わが同窓会といたしましてもこの意義ある百三十周年を迎えるに当たって、古い歴史と伝統をかえりみると共に母校の現在の充実と将来の発展を願って、世代や卒業年次を越えて総力を結集し、意義ある記念事業を実現せんと期しております。

各部門の実行委員会によって立案計画されている事業の主要なものは、下記記念事業計画のとおりであります。

創立以来百三十年という節目の年を迎えて、同窓生各位のご協力をいただき成就を期したく存じており、記念事業および行事費として同窓会は一口五千円を募り、三千五百万円を募金の目標額と致しました。母校の発展、同窓会の充実、後輩の育成のため、同封別紙に基づきご寄付を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

敬具

平成十四年三月

秋田県立秋田高等学校
創立百三十周年事業実行委員会委員長
会長　丸山　健

同窓会会員各位

記念事業計画

一、女子運動部トレーニング場　一、四〇〇万円
一、ピアノ　四〇〇万円
一、その他の事業八〇〇万円
　先蹤録・周年誌発行他
一、記念行事　三五〇万円
　会場借上・記念講演他
一、総務費　五五〇万円
　印刷・通信・実行委員会会議費他

記念事業募金計画

一、目標額　三千五百万円
一、期　間
　平成十四年四月から平成十五年八月
一、募金方法　一口　五千円
一、払込方法
（1）専用の払い込み用紙をご利用ください。
（2）現金書留又は直接秋田高等学校内本会事務局までご持参ください。
一、問い合わせ
〒〇一〇―〇八五一
秋田県秋田市手形字中台一番地
秋田県立秋田高等学校内
創立一三〇周年記念実行委員会事務局
電話
〇一八（八三二）九五五三
FAX
〇一八（八三二）九五八八

秋高百三十周年記念事業 部門別委員

○実行委員会
委員長　丸山　健（S14）
副委員長　小玉得太郎（S18）
〃　辻　兵吉（S19）
〃　小林　忠雄（S28）
〃　井上　房子（S29）
〃　高橋　幸臣（校長）

○総務委員会
委員長　小玉得太郎（S18）
副委員長　井上　房子（S29）
〃　高橋　幸臣（校長）
委　員　山谷　浩二（S20・4）
〃　小林　良弘（S25）
〃　藤原　豪男（S27）
〃　工藤　雄一（S33）
〃　豊口　祐一（S34）
〃　高橋　智徳（S40）

○行事委員会
委員長　山谷　浩二（S20・4）
副委員長　桝田　浩司（S30）
〃　岡野　文秀（S41・）
委　員　佐々木博良（S38）
〃　秋山　秀昭（S39）
〃　高村　文子（S45）
〃　上村　司（S48）
〃　菊地　了邦（S48）
〃　佐藤　悦紹（S49）
〃　小国　輝也（S57）
〃　笹渕　篤（S38・）
〃　安藤巳智子（S47・）

○財政委員会
委員長　豊口　祐一（S34）
副委員長　速水　洋子（S39）
〃　佐藤　健公（S48・）
委　員　佐渡谷栄悦（S35）
〃　大嶋　駿一（S37）
〃　高橋　智徳（S40）
〃　遠藤　茂麿（S44・）
〃　斎藤　信郷（S44）
〃　佐野　元彦（S49）
〃　原田　康平（S60）

○名簿委員会
委員長　工藤　雄一（S33）
副委員長　佐藤　英明（S46）
〃　工藤　昭二（S48・）
委　員　伊藤　健一（S38）
〃　菊地えり子（S45）
〃　田近　吉彦（S50）
〃　小林　忠彦（S55）
〃　越中谷孝一（S59）
〃　橋本　雅之（S50・）

○広報委員会
委員長　藤原　豪男（S27）
副委員長　田宮　忠（S32）
〃　寺田　和夫（S41・）
委　員　成田　凉子（S31）
〃　大友　直（S57）
〃　松岡　直樹（S61）
〃　佐々木晃久（S50・）
〃　平野　則夫（H1・）
〃　竹内　静子（H4・）

○校史委員会
委員長　小林　良弘（S25）
副委員長　佐藤　正（S25）
〃　柴山　芳隆（S36・）
委　員　遠藤　茂麿（S44・）
〃　安藤巳智子（S47・）
〃　関　一（S52・）
〃　安田　浩幸（S54）
〃　石塚　政吾（S54・）
〃　森元　弘毅（S62・）
〃　平野　則夫（H1・）

○施設委員会
委員長　高橋　智則（S40）
副委員長　佐藤　公世（S43）
〃　目黒　大作（S39・）
委　員　相場　清和（事務長・）
〃　遠藤　茂麿（S44・）

・学校側委員

秋田高等学校創立130周年記念事業計画予算概要

◎ 収入の部

募金目標額	35,000,000円	5,000円×7,000人

◎ 支出の部

項目	予算額	摘要
総務委員会	400,000円	会議　功労者表彰等
財政委員会	2,000,000	通信　印刷　募金振込用紙等
広報委員会	3,500,000	編集、取材、印刷、発行　だより特集版　送料
行事委員会	3,500,000	式典　祝賀会　記念講演　招待行事　文化交流事業
校史委員会	4,500,000	資料収集　先覚顕彰誌　周年誌
名簿委員会	0	名簿38号発行（別途会計）
施設委員会	18,000,000	女子運動部トレーニング場　ピアノ
事務局	2,500,000	送料　印刷　消耗品　諸会議　人件費　他
予備費	600,000	
合計	35,000,000	

先覚顕彰誌 先蹤録（せんしょうろく）

「先蹤」という字句は校歌の三番にあるので、同窓会員には既に馴染のものであろう。

標題の『先蹤録』は、この度の本校創立百三十周年記念事業の一環として発刊することになった、秋田高校の歴史にみる人物像顕彰誌のタイトルであり、この名付け親は、現同窓会丸山健会長である。

ことの起こりは、先に建設された資料館（羽城館）の整備について、企画委員会で討議を重ねた結果、平成八年になって、秋田高校の歴史上の人物を掲額する案が浮上。この人物像選定については、選考委員会（貝沼研造委員長・S8）に一任したのであった。

①人物像掲額決定者総勢四十三人

第一次選考は『同窓会だより』第五三号（平成9・7・27）に発表済みのため省略、第二次選考（平成10・9・25）の結果は以下の通りである。

M12中退　安藤和風
22中退　近江谷栄次
26　佐々木駒之助
29　安倍仲雄
33　滝田樗陰
35　池田謙三
　　横山助成
37　田所哲太郎
43　仁平高
T4　古村精一郎
　　人見誠治
7　伊達義行
12　山本時男
13　鈴木健次郎
14　深井史郎
　　伊藤勝三

さらに、遺漏のないよう再確認を兼ねた最終選考委員会（平成14・5・10）の結果は、

M17中退　土田萬助
27　柴田政太郎
29中退　奈良磐松
37中退　河村重治郎
40中退　西村祥治

と決定。最終の五人については、現在肖像権承認のお願いを進めているところである。

②『先蹤録』編さん

さて、第一次掲額をやってみたところ、大方は明治生まれであり、どんな人物かよくわからない。よって解説書を用意しよう。いや、どうせやるなら一冊の本にまとめるべきだ、ということになり、来年九月一日の記念式典に向けて現在編集作業を進めているところである。

執筆は、秋田高校教職にある柴山芳隆氏（S36）にご苦労を願っているところ。完成の暁には、いささかなりとも「先蹤追いつつ未来の望み」のよすがになれば幸いと考えている。

（Mは明治、Tは大正、Sは昭和、数字は卒業年次）

校史委員長　小林良弘（S25）

130周年記念事業寄付金納入状況

平成14年6月末現在

金額	人数	小計
200,000円	3人	600,000円
130,000	1	130,000
100,000	1	100,000
50,000	13	650,000
30,000	14	420,000
25,000	2	50,000
20,000	17	340,000
15,000	4	60,000
10,000	404	4,040,000
6,000	3	18,000
5,000	1,307	6,540,000
3,500	1	3,500
3,000	13	39,000
2,000	5	10,000
1,000	3	3,000
合計	1,791	13,003,500

各委員会活動の報告

来年のさまざまな創立百三十周年記念事業の成功に向けて、同窓会内では各種委員会がすでに動き出しています。同窓会会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

総務委員会

総務委員会は百三十周年実行委員会を総括している委員会です。企画・財政・広報・名簿の常置委員会に、校史・施設の二つの特別委員会があり副会長と六部門別委員長から構成され、小玉得太郎氏が委員長に選任されております。（企画委員会は記念事業期間は行事委員会と呼称）

委員会のおもなる協議・決定事項は

①各部門別委員会の委員の選任
②募金目標額と予算案の策定
③記念事業や行事
④施設整備事業（女子部室建設とピアノ寄贈）
⑤名簿発刊

右記の協議決定事項を各部門別委員会に付託、具体策を検討することになりました。総務委員会では、周年事業を通して秋田高校同窓生ならびに在校生の母校意識の高揚を図り、新しい時代に即した多くの卒業生の協賛を得られる同窓会のあり方などを協議。

従来の施設を主としたハードな周年事業を、同窓会と母校との交流のソフト事業を基本方針として審議。五年前から企画され編集中の秋高の先覚顕彰誌「先蹤録」の発刊と学校側よりの要望のあった女子部室トレーニング場建設およびピアノの寄贈が決定されました。現在学校全体の生徒数の四割を超す女子生徒に対応した施設設備が充分でなく、公費での実現が難しい現状での女子部室建設は周年事業として有意義であり、今後母校全体の部活動の活性化が期待されるところです。

〈財政委員会〉

広く多くの会員に、百三十周年事業に参加協力を願うため一口五千円、目標額三千五百万円として、本年四月より募金中で十月末を一次締切としています。七月に納入依頼をした同窓会会費と混同しないよう青色の振替用紙を使用しています。

なお平成十年卒以降の会員や旧職員の特別会員に、寄付依頼はしていませんが、寄付申込みやその問いあわせがあります。寄付受付はしていますのでよろしくお願いします。

〈広報委員会〉

年間三回発行している同窓会だよりに、百三十周年事業広報として毎号各部門委員会の活動や計画の進捗状況を掲載。特集号を事業報告及び募金者芳名録として発行の予定。

〈施設委員会〉

今回の周年事業女子運動部室の建設（予算千四百万）決定をうけ同委は建設場所、規模等を協議検討。場所は大体育館入口の両サイドの位置とし、工作物の建築承認の認可も済み、来年四月上旬に業者選定依頼、工事着手五月、工事完了は七月に予定しています。

〈校史委員会〉

直近の十年間の本校の動きを概観、進路指導、生徒指導、部活動、PTAなど、いくつかの項目を立ててまとめるほか、関係者による座談会の掲載も予定している。質・量ともに充実していた「百二十周年記念誌」に優るとも劣らない記念誌をめざして作業が始まったところです。

〈行事委員会〉

記念式典（県民会館）並び

同窓会名簿（38号）改定発行スケジュール表

平成14年
5月・名簿委員会（完成迄七回程度予定）
6月・14年度データ返送整理
8月・名簿仕様検討決定
9月・名簿頒布価格決定
10月・印刷業者入札により決定
・細部　業者と打合せ
11月・会員カード作成準備
12月・掲載広告協力依頼準備

平成15年
1月・年次名簿委員会議
2月・掲載広告募集開始
3月・会員カード発送
4月・返送会員カード整理
5月・不明者追跡業務
・名簿注文数集計
・名簿データ広告〆切
6月・業者へ最終データ受け渡し
7月・最終校正
8月・印刷、製本完了発送

〈名簿委員会〉

平成十五年版・百三十周年記念名簿発行のため左記予定で準備中。現在の登録者数7490人。逝去者数6230人となっています。

母校訪問

伝統は生きていた――母校の充実に感動

昭和27年卒同期会

「こんな立派な校舎ならもっと勉強しただろうな…」瀟洒な母校を目のあたりにした誰かのジョークにも一行から笑いが出なかった。ほとんどが五十年ぶりの母校の充実ぶりに、声も出なかったのだ。

――――――――――――

に祝賀会（キャッスルホテル）は平成十五年九月一日（月）の創立記念日に決定。

式典の行事・催しもの等については、学校・PTAの実行委と協議し今後具体的に検討の予定です。

高卒五十周年を迎えたのを機会に母校の現代の姿を仲間と確かめたい、秋田・東京の仲間から期せずして上がった要望が今回の訪問のきっかけだった。六月十六日に岩城町の厚生年金休暇センター・ウエルサンピア秋田で記念総会を開いた後、翌十七日に二十七人がバスに乗り込んだ。一行には東京同窓会会長の高橋恒雄君、ニューヨークから駆けつけた寺山威君、十二年ぶりに同期会に参加した広島在住の野呂道雄君も交じっていた。

終戦の翌年、旧制秋田中学に入学した我々は、学制改革で「秋田南高校併設中学」に編入され、高校二年になるまで四年間も最下級生で過ごした。しかも入学当時、進駐軍に撤収された校舎が焼失していたため、入学式は中通小学校で迎え、当初は旭南小学校で午後から授業を受けた。

一月足らずで旧十七連隊跡に全校がまとまったものの兵舎跡の教室は、全くの荒れ放題。冬季は吹雪がまともに校内に吹き付け、薪替わりに床板や天井板を剥がして寒さをしのいだ。薄暗くて角度によっては黒い板の字も読めないほどの教室は、授業中に旧軍隊の置き土産?の「南京虫」に悩まされねばならなかった。高校三年になってようやく駅前校舎が完成したが、兵舎跡教室の印象は、今なお強く我々の脳裏に刻み込まれ、仲間が顔を合わす度に語り種になっている。

この日の母校は、生憎中間テスト中だったが、緊張ぎみの我々を暖かく迎えてくれた。かっては恐れ多くて、顔を上げて入室できなかった職員室も先生たちが愛想よく通してくれた。会議室に掲載された歴代校長の写真の中から、玉木正行、中川秀松、高橋一郎と三代の校長の尊顔を見つけた時は懐かしくて目頭が熱くなる思いがした。

高橋幸臣校長から母校の現況説明を受けた後、目黒大作、岡野文秀両教頭の案内で校内を見て回った。わずか二十八人だった女子生徒は、今や四百人を超え、在校生の四割を占めているのをはじめ、校内は全てが半世紀の歳月を感じさせるものばかり。我々は、昭和四十六年の「着装の自由化実施」の記録から、在校当時喧々諤々と続いた生徒会での〝長髪論議〟を思い起こし、また、野球場や球技場から、連隊跡の馬場をグラウンドにするため全校生が新屋浜から徒歩で砂運びした〝汗と泥の姿〟が浮かんだ。

明るい校内の廊下から窓越しにテストに取り組む女生徒を望見して〝今浦島〟気分になりかけた我々が救われた気分になったのは、文武両道の校訓が今なお生きていることと、野球部が新監督を迎え、甲子園出場を目指し猛練習に励んでいると聞かされたときだった。全ての価値観が変わった今も百三十年の伝統を守るべく努力する先生たちの苦労と、飽食の世の中にも自らを鍛える後輩たちが後を絶たないことが頼もしくてならなかった。

駅前校舎が跡形なく消え、卒業当時の校舎と同じ進学校が他に育っている秋田の教育界。一抹の寂しさを感じていた中で、母校が時代とともに場所、形こそ変えながらも創立当時の校風を維持し、後輩たちが頑張る姿を確かめた一行は嬉々として帰途についた。

（信太聡一記）

平成13年度 年次別名簿 会費納入状況

平成14年4月1日現在

年度	現総数	住不明	納入者	未納者	実納率	逝去者	年度	現総数	住不明	納入者	未納者	実納率	逝去者
昭2	15	5	1	9	10%	135	37	469	96	153	220	41%	33
3	9	2	3	4	43%	124	38	471	137	135	199	40%	25
4	25	9	5	11	31%	95	39	482	31	166	285	37%	16
5	46	27	9	10	47%	124	40	506	102	151	253	37%	15
6	45	28	9	8	53%	150	41	504	177	131	196	40%	17
7	69	34	17	18	49%	162	42	518	133	159	226	41%	21
8	49	4	26	19	58%	151	43	517	135	144	238	38%	15
9	80	39	21	20	51%	114	44	514	247	94	178	36%	15
10	49	4	26	19	58%	163	45	506	148	102	256	28%	14
11	64	4	48	12	80%	151	46	483	101	141	241	37%	7
12	78	4	51	23	69%	125	47	468	246	69	153	31%	10
13	75	16	32	27	54%	132	48	446	146	93	207	31%	9
14	100	28	36	36	50%	113	49	450	96	147	207	42%	5
15	96	10	64	22	74%	117	50	437	102	115	220	34%	13
16	110	5	68	37	65%	100	51	452	107	108	237	31%	5
17	103	10	65	28	70%	104	52	467	211	59	197	23%	6
18	148	10	94	44	69%	101	53	461	141	100	220	31%	4
19	142	23	82	37	69%	100	54	448	242	63	143	31%	5
20・5	177	22	96	59	62%	89	55	451	218	63	170	27%	4
20・4	177	24	101	52	66%	76	56	446	218	56	172	25%	1
21	113	26	50	37	57%	50	57	445	200	63	182	26%	4
22	120	13	57	50	53%	37	58	460	242	49	169	22%	4
23	224	27	122	75	62%	49	59	444	153	70	221	24%	8
24	(90)					(20)	60	444	77	82	285	22%	4
25	258	26	141	91	61%	78	61	469	184	51	234	18%	6
26	328	46	176	106	62%	51	62	472	179	53	240	19%	4
27	351	64	158	129	55%	81	63	459	136	68	255	21%	1
28	340	54	143	143	50%	68	平1	459	135	58	266	18%	1
29	466	39	254	173	59%	61	2	457	101	65	291	18%	2
30	454	84	212	158	57%	47	3	463	81	77	305	20%	2
31	452	101	181	170	52%	49	4	463	54	88	321	22%	0
32	447	118	172	157	52%	36	5	461	83	86	292	23%	0
33	466	64	240	162	60%	44	6	457	72	78	307	20%	0
34	481	85	190	206	48%	34	7	459	65	97	297	25%	1
35	486	120	168	198	46%	35	8	460	70	94	296	24%	2
36	471	58	189	224	46%	29	9	446	28	99	319	24%	0

明　治	逝去者数1,129					
大　正	現総数38	納入者5	未納者19	住所不明者14	逝去者数1,473	
定時制	S21~S43夜間、分校、通信制	納入者177	未納者546			「だより」送付者723
合　計	現総数25,649	納入者6,920	未納者11,648	海外在住者166	逝去者数6,194	「だより」送付者18,568

（合計は平成9年度迄　平成10年度以降1,567人を除いたものです）

※　分析表（解説）

・現総数…データベースに登録されている人数　・実納率＝納入者／（納入者＋未納者）

「飛良泉」で会員研修

仁賀保地区支部総会 ＆ 会員研修会

つどい

昨年誕生の仁賀保地区支部の平成十四年度総会が去る三月六日仁賀保町のホテル「いちゑ」で開催されました。

総会に先立ち昨年の総会の決議に基づき、第一回の会員研修会が支部長（斎藤昭一郎氏S20年卒）の好意により、創業以来五百年を誇る県内最古の酒蔵「飛良泉本舗」を会場に行われました。支部長自ら案内役に立ち仕込みから絞りの段階まで、醸造用乳酸を使わず、自然のまま乳酸菌の培養を待つ『山廃仕込み』に拘る飛良泉の酒作りを丁寧に説明して下さいました。最後に、この日に合わせて酒作りしたという、最高級酒の絞りたての原酒を振舞われて、参加者一同大感激、これを目当てに参加したという愛飲家もおり、試飲用の器で二杯、三杯とおかわりする者ありで、予定の時間はあっという間に過ぎ、実益を兼ねた、第一回の研修会は参加者十八名、全員大満足の内に無事終了しました。

「飛良泉本舗」からほろ酔い機嫌で迎えのバスに乗り込み、「いちゑ」に会場を移して六時から総会、総会からの参加者もおり、総会出席者は二十八名でした。事務局から事業報告・会計報告があり、懇親会に移り、支部長挨拶に続き、本部から出席の丸山健会長挨拶・学校側から出席の伊勢日出男教頭の学校現況説明をいただきました。創立百三十年を来年に控え、会員一同母校ますますの発展を願うとともに、来年の記念行事成功へ向けての意を新たにしたところでした。

（31年卒・三浦彬記）

春風さわやか 声高らかに

秋中首都圏204会

春風そよぐ四月六日（土）南青山会館において秋中首都圏二〇四会が開催された。出席者一九名（紅一点は富樫夫人）。いつものことだが互いに久闊を叙し、相手の元気な姿に接して安堵する。今年は例年になく桜の開花が早く、昨年のような千鳥が淵での花見が出来なかったが、会は大いに盛り上がった。

始めに、逝去された吉武君の霊に対して黙祷を捧げ哀悼の意を表した。以前に彼の紹介で、防衛庁関係の会館・グランドヒル市ヶ谷でこの二〇四会を開いたことがあったが、そんなことが思い出される。

次は仲間うちの講話で、かつて最高責任者として銀行経営に携われた小玉君より、「ペイオフと小泉内閣の経済政策」について解説してもらった。時宜を得たテーマであり、また我々の生活に関わる問題でもあるので、皆熱心に耳を傾けた。昨年の大友君の講話に続いて、今年も錦上花が添えられた。

乾杯の発声を皮切りに、爽やかにビールが喉に流れて開宴。あちこちで酒盃が交わされ会話に調子が出てくると宴がなごみ始める。そのうち上衣が脱がれて気合いが入ってくると、高揚たる気分が一気に座に漲る。頃合いよしと校歌の斉唱に移る。富樫君のリードよろしく、皆立ち上がって声を張りあげる。普段口にしない校歌もこうして仲間と声を揃えて歌い出すと、紅顔の日々が脳裏に浮かび、遥かなノスタルジーに胸が覆われる。歌がすすむにつれて熱く血が滾って感激の極に達す。ああ、まさに会のハイライトと言うべきか。

歌い終わって座へ戻ると既に無礼講。話に話が弾み、笑いが笑いを誘って唯々和気藹藹、しばしこの至福の境に陶酔する。時は無情なもの。もう終宴の刻が告げられ皆我に返る。気持を整えて記念の集合写真に収まる。

「じゃ元気で！」「ではまた…」、二次会へ繰り出すもの、家路へつくもの、それぞれ再会を期し軽く言葉を掛け合って、暮れなずむ街並みへと散って行った。

（藤原記）

例年以上に盛り上がる

大館支部総会

大館支部総会は二月二十二日（金）同窓会より丸山会長、斉藤事務局長をお迎えし、大館市幸町「北秋クラブ」にて開催。

布袋屋伊作支部長（昭20・5卒）が「例年より参加者が少ないものの精鋭のメンバーの出席をいただいた。限られた時間だが、大いに楽しみたい。」と挨拶。

小畑元大館市長（昭43卒）による〝大館をとりまく経済状況〟と題したショートスピーチのあと、丸山会長からは格調高く〝校歌への所感〟。また事務局長からは生徒数の変化、および女子生徒の占める割合等のお話をいただいた。

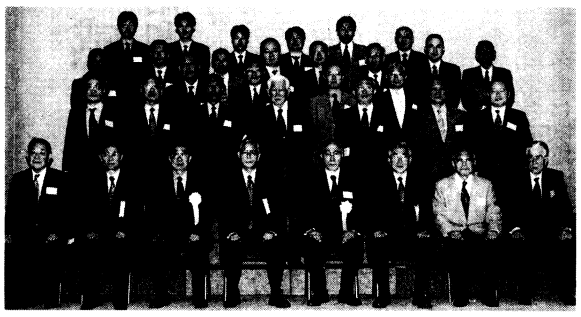
記念撮影のあと小野崎桂二氏（昭和20・5卒）の発声により乾杯、祝宴に入った。

恒例の自己紹介は時間無制限でそれぞれの現況報告・日頃感じていること・また秋高での思い出話などが語られた。共有の思い出が披露された時には互いにうなづき合う姿が見られ、同じ想いにひたっていた。

例年にない盛り上がりで、予定の時間をはるかにオーバー。最後に校歌を五番まで斉唱し、再会を期し散会した。

支部長、幹事長の祝賀会で盛会に

大曲支部総会



大曲支部総会は五月二十九日（水）、市内「エンパイアホテル」で開催された。

あわせてこの春、大曲市より市功績者として富樫支部長、藤田幹事長が表彰されたことを祝い、二人の今後ますますの活躍を願う祝辞や、支部長・幹事長それぞれの受賞の挨拶があり、例年にも増して大いに盛り上がりを見せた懇親会となった。

富樫公一郎氏（昭19卒）は教育文化への功労、藤田紀一氏（昭23卒）は体育協会会長として、剣道をはじめとする各種スポーツ振興への永年の貢献が認められての受賞であった。

なお、大曲市出身の日本学士会員、荒井献氏（昭25卒）も特別功労者として受賞している。

同窓会からご出席いただいた斎藤事務局長、八郎潟出身で現在秋田高校に勤務されている佐藤信英教諭（S51卒）から、同窓会および母校の現状をご説明いただき、同窓会員・新入生ともに、興味深く聞き入った。

その後、畠山幸雄副会長（S29卒）の発声で乾杯。出席者一人一人から近況報告と新入生への激励が行われ、大いに気勢を上げた。

最後には、六名の新入生を送り出した須田秀温八郎潟中学校長（S38卒）から挨拶があり、生徒たちも恩師の暖かい言葉に感慨深げな表情であった。

今回は実に五年ぶりの開催であったが、旧交を暖める同窓会員の顔は明るく、今後の会の発展・継続と、若い会員の出席者数の増加を目指していくことで一致。盛会のうちに幕を閉じた。

（八柳祐孝）

六名の新入生をゲストに五年ぶりの開催

八郎潟支部総会

八郎潟支部同窓会が、さる四月六日（土）、今年度新入学生のお祝いと歓迎を兼ね、八郎潟駅前の料亭「美富士」で行われた。

夕方五時から始まった会では、新しく我が秋田高校の後輩となった八郎潟中学校卒業生六名を、盛大な拍手をもって迎え入れた後、まずは亡くなられた諸先輩に対して全員で黙祷。続いて大高博氏（S34卒）のリードにより声高らかに校歌を斉唱。小野穣会長（S23卒）の挨拶では、情熱溢れる心のこもった励ましのメッセージに、六名の新入生たちも感激の面もちであった。

平成5年卒の皆さんへ

卒業10周年記念同期会

日時　15年1月2日(木)

世話人代表
金岡　直人（大曲高校勤務）
伊勢奈緒子（能代西高校勤務）
（旧姓安田）

［連絡先］秋高同窓会事務局
Tel.018-832-9553

菅原税務会計事務所
税理士
菅原寛治
（昭和23年卒）
東京都墨田区江東橋4丁目21番6号
（錦糸町ハイタウン204号）
TEL（03）3632－7288
FAX（03）3632－7396

上野法律事務所
弁護士
上野　勝
（昭和23年卒）
〒160-0022
東京都新宿区新宿5－4－1
新宿Qフラットビル808号室
TEL（03）5269－6831
FAX（03）5269－6870

吉川税理士事務所
税理士
吉川昭一
（昭和23年卒）
秋田市中通6－1－24
電話018－835－0088(代)

㈱本郷建設
取締役社長
本郷　真
（昭和23年卒）
取締役専務
本郷　滋
（昭和28年卒）
秋田市千秋矢留町7－29
TEL 018－832－4681

内科・胃腸科・レントゲン科
笹原内科医院
笹原秀雄
（昭和23年卒）
秋田市大町二丁目4
☎018－862－2578

曹洞宗
乗福寺
住職
中泉俊堯
（昭和33年卒）
曹洞宗　総和会　秋田県支部長
秋田市添川字添川4
TEL 018－868－1262
FAX 018－868－7630

RENTAL is ECO
ダスキンです。
清三屋商事株式会社
ダスキン新国道支店
代表取締役
長谷川善四郎
（昭和33年卒）
秋田市八橋新川向11－6
TEL 018－888－3131
FAX 018－866－8836

祝喜寿 田ム鉄先生健在!!

S32卒3年B組45年振りのHR

春爛漫の東京で、卒業以来四十五年振りのクラス会が開催されました。私達はTVドラマじゃないですが、三年B組。昭和32年卒業で田村先生の喜寿を祝い、四月十四日「アルカディア市ケ谷」に十二名が日本各地から参集し、元気よく楽しいホームルームが始まりました。

今回の幹事の栗林さんの司会でHRが開始されました。最初にタムテツ先生の挨拶があり、最近気になっている事として「俺ノ所ニ手紙ガ来ルノハイイノダガ、名前ノ『鉄男』ノ漢字ガイイカゲンナ文字デ困ッタモンダト思ッテ居ル。オベタフリシテ、昔ノ字ヲ書イテキテ、『鐵』ノツモリダロウガ、『鋲』ダッタリ、『鐵』ナノデアルガ、確カニ『テツ』トハ読ムカモ知レナイガ、更ニ悪イコトニハ、キチント覚エテイナイカラ金偏ヲ左側ニ書イテ、後ハゴチャゴチャトゴマカシテ送ッテ来ル。俺ノ名前ヲ何ダト思ッテイルノカ憤懣ヤルカタナイ。ワカラナカッタラ簡単ナ『鉄』ヲキチント書イテヨコセ。文字ノ乱レガ世ノ中ノ混乱ノ元デアリ、日本ヲ悪クシテイル根源ナノダ。物事ヲ基礎カラシッカリト学ンデイナイカラコウ云う事象ガ多発スル。嘆カワシイ現状デアリ、諸君モ人ノ親トシテ反省シナケレバイケマセンゾ。」冒頭から鉄学論争で「タムテツ節」が炸裂し、爆笑の渦となりました。後は飲むほどに、酔うほどに六十四歳の高校三年生が次々と誕生して、ジープ、チャイナ、クンシ、ギャング、ヤギ、バンダエモン、リンネ等々、四十五年前の授業状況が再現され、収拾がつかない爆笑と歓談へと展開してゆきました。

先生が物理の時間に歌って教えてくれた土井晩翠の「星落秋風五丈原」。四十五年振りに再授業となり、正に秋田駅前校舎三年B組が東京で蘇ったようでした。卒業以来それぞれの人生を経て、体型、風貌は変化していますが、間違いなく秋高健児であり、懐かしくも暖かいクラスメイトであり、楽しく意義深いクラス会でありました。話尽きない時間ではありましたが、校歌斉唱の後、先生の米寿までお互いに元気で頑張る事を誓い合いめでたく解散としました。

（國安志郎記）

全員がショートスピーチ

S26年卒同期会関東地区会

去る六月一日（土）虎ノ門パストラルホテルにおいて昭和26年卒同期会関東地区会が開催された。会員三十二名が出席。中には秋田をはじめ、仙台、神戸など遠方からの参加者もあり、遠路はるばるの参集に、事務局として心から深甚なる感謝を申し上げたい。

事務局長佐藤二郎君の司会のもと、幹事長佐々木清水君の挨拶で開会。次いで秋田代表太田洋生君の祝辞を受け、熊坂章君の音頭により乾杯。宴は前半の全員のショートスピーチによる自己近況披露で顔・名前・当時の記憶整理。そのあと、後半の再会懇談へと進行された。

大いに盛会、名残り惜しいとの多数の声の中、制限時間いっぱい。最後に校歌、校友会歌を斉唱し、お互いの健康を祈念、更に来年の再会を約し幹事山下直樹君のリードで中締め。大拍手をもって散会した。

佐々木東大学長講演 ゲストに浅利氏

東京同窓会

本年度の総会は、去る五月二十四日（金）新宿区センチュリーハイアット東京で、会員百三十人が参加して開催された。

総会では高橋恒雄会長（昭27卒）が「親睦を深め、会員のビジネスに生かそう」とあいさつ。

本部から丸山同窓会会長、目黒大作学校新教頭（昭39卒）を迎え、同窓会本部の現況や最近の秋田高校についての話があった。

本年の講演者は佐々木毅東京大学長（昭36卒）。就任してからの一年を振り返って、米ハーバード大の学長就任式典に参加した時のエピソードや、景観が悪化していた赤門周辺や安田講堂を整備・修理した話をユーモアたっぷりに披露していただいた。

また今回は、あげまき会（秋田北高同窓会）東京支部代表として、女優の浅利香津代氏が特別参加し、秋田と秋田高校への想いを秋田弁で話し、やんやの喝采を受けた。

懇親会では校歌や校友会歌を合唱、それぞれの青春時代を懐かしんだ。

新支部長に大里祐一氏

鹿角支部総会

鹿角市支部総会は、六月十八日（火）午後六時から、花輪町の料亭「まつや」で開催された。参加者は十六名。

冒頭上野守支部長（昭26卒）が退任して新支部長に大里祐一氏（昭29卒）が就任したことが報告された。

総会は丸山同窓会長が、母校の校歌論議を交えた最近の同窓会現状などの挨拶に始まり、無事案件を終了。懇親会に入った。

今年は鹿角地区の秋田銀行や県関係事務所に勤務する平成卒の若手が数名参加したため、例年以上に盛り上がり、活気あふれる総会となり、喜ばしい限りであった。

新たに国安氏が副支部長に

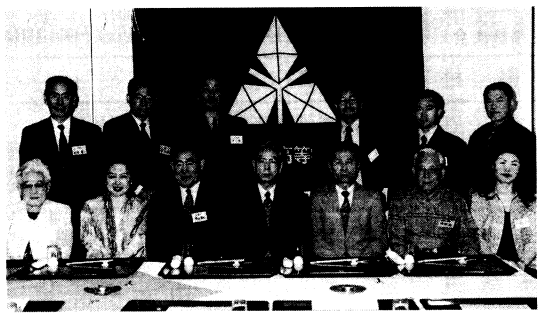
宇都宮支部

毎年恒例となっている宇都宮支部総会は六月七日（金）市内丸治ホテルにて開催された。

同窓会本部からは、丸山会長と斉藤事務局長の出席を賜り、楽しく意義深い時間を過ごすことができた。

今回の総会は役員の改選があり、支部長の鷲谷澄夫氏（昭20卒）と副支部長の丸山豊氏（昭42卒）が再任。また、新たにもう一人の副支部長として国安啓二氏（昭23卒）が就任。新体制で支部の運営等にあたることになった。

〈事務局〉
宇都宮市下荒針町三六一八
鷲谷病院内☎〇二八―六四八―三八五一



医療法人
村田産婦人科医院
院長 村田純治
（昭和33年卒）
秋田市土崎港中央5丁目3-37
TEL857－4055

美称
秋田郷土料理 美酒亭
秋田市中通四丁目十四の三十四
宮崎林次郎
（昭和33年卒）

秋田きもの紀行
㈲渡吉呉服店
代表取締役
渡辺吉雄
（昭和33年卒）
〒010-0925
秋田市旭南2丁目3－10
TEL（018）823－0227
FAX（018）823－0887

豊口法律事務所
弁護士
豊口祐一
（昭和34年卒）
〒010-0943
秋田市川尻御休町1番17号
TEL 018－864－6228
FAX 018－823－2576

盛岡会計センター㈲
高橋税理士事務所
税理士・中小企業診断士
高橋広悦
（昭和34年卒）
秋田市泉中央1－2－15
TEL 018（862）3532

㈲堀井経理研究所
堀井会計事務所
公認会計士・税理士
堀井照重
（昭和34年卒）
秋田市山王一丁目3番32号
TEL 018（864）1522㈹

株式会社 山二
社長
西村紀一郎
（昭和34年卒）
秋田市中通2丁目5－20
TEL 018（833）6611

紙の専門店
那波紙店
那波伊四郎
（昭和34年卒）
秋田市大町四丁目3－35
（茶町通り）
☎018－823－4311㈹

快適空間を演出する
Good Space Management
株式会社 友愛ビルサービス
〒010-0951
秋田市山王三丁目1番7号（東カンビル）
TEL 018-823-1251（代表）
FAX 018-823-1195

秋高創立120周年モニュメント
「風の舞」生徒昇降口設置
アトリオン広場、秋田県立近代美術館、その他にモニュメント設置
モダンアート協会会員
彫刻家
遠藤洪平六
（昭和34年卒）
アトリエ
東京都青梅市河辺町3の1089
TEL・FAX 0428（24）8386

横浜市港北区高田西四－四－一五
〒223-0063
TEL〇四五－五九二－七八一九
西本正明

高木内科胃腸科医院
高木紘一
（昭和34年卒）
秋田市将軍野南4丁目6－2
TEL 018（845）1118

平成14年度 第48回秋田県高校総合体育大会成績一覧

種目	会場	戦績
陸上競技	県営陸上競技場	・800m第2位（鈴木）［東北大会出場］
バスケットボール	秋田市立体育館	一回戦　秋田83－62花輪 二回戦　秋田66－70大曲工業
バレーボール	秋田市立体育館	一回戦　秋田0－2鷹巣
卓球	横手平鹿広域圏民体育館	・男子団体3位　秋田1－3秋田商業 ・男子ダブルスベスト8（佐々木3・藤田3、滝田2・巴2） ・男子シングルスベスト8（秋山3、滝田2）［東北大会出場］
バドミントン	秋田県立体育館	・男子団体　一回戦　秋田2－3経法附 ・男子ダブルス　3位（佐々木・工藤）［東北大会出場］ ・女子団体　一回戦　秋田1－3米内沢
ソフトテニス	能代市	・男子団体一回戦　秋田1-2金農　・男子個人一回戦　秋田（長谷部・高橋）4-0六郷　二回戦秋田1-4鳳鳴 ・女子団体一回戦　秋田0-3角館　・女子個人一回戦　秋田（田中・石井）3-4鳳鳴（佐藤・吉田）
テニス	秋田市八橋庭球場	・男子団体 一回戦 秋田2－1新屋　二回戦 秋田1－2秋田工 ・男子シングルス3位　伊藤圭祐　・男子ダブルス3位　大島・伊藤組 ・女子団体3位　3位決定戦　秋田2－0鳳鳴　［東北大会出場・男女］
サッカー	県立中央公園県営球技場	2回戦 秋田6－0鷹巣　3回戦 秋田0－0御所野学院[6(PK)5] 準々決勝　秋田0－2由利工業
ラグビー	東北電力グラウンド・秋田市営八橋球技場	一回戦　秋田97－0経法附　二回戦　秋田17－29秋田工業 順位決定戦　秋田67－0大館工業
山岳	真瀬岳（八森町） 白神岳（岩崎村）	・男子団体1位　Aパーティー191点（福島3・小松3・近藤2・今井2）［インターハイ出場］ ・女子団体3位　Aパーティー159点（五十嵐3・近間3・山形谷2・布施2）
弓道	県立スポーツ会館	・女子団体3位 ・女子個人4位　秋山惟　［東北大会出場］
剣道	秋田南高校	・男子団体 予選リーグ 秋田5－0能代工 秋田5－0西仙北　決勝トーナメント準々決勝 秋田4－1秋田高専 準決勝 秋田4－0経法附　決勝　秋田0－2秋田商　［東北大会出場］ ・男子個人　小野健裕　ベスト8　［東北大会出場］ ・女子団体　予選リーグ　秋田0－4大曲　秋田0－3能代
柔道	金足農業高校	・予選リーグ　秋田4－1角館　秋田4－0大曲工業 ・決勝トーナメント準々決勝 秋田4－0秋田南、準決勝 秋田3－2能代 決勝　秋田3－2経法附　［インターハイ出場］ ・個人　＋100kg級　1位　持主　慈　［インターハイ出場］ 2位　石井直人　［東北大会出場］ －90kg級　1位　金子大輔　［インターハイ出場］
漕艇	大潟村ボートコース	・男子舵手付きクォドルプル　2位　［東北大会出場］ ・男子ダブルスカル　3位（北林・坂田）［東北大会出場］ ・男子シングルスカル　4位（嵯峨）
水泳	五城目町温水プール（中央地区大会）	・三瓶　結（1年）男子200m個人メドレー2位、男子400m個人メドレー3位　［東北大会出場］ ・佐藤　元彦（1年）男子200m平泳ぎ3位　［東北大会出場］ ・工藤佳那子（1年）女子200m自由形1位、女子100m自由形2位
駅伝	大潟村	10月13日（日）
スキー	鹿角市	平成15年1月16日（木）～20日（月）

第50回春季東北地区高等学校野球秋田県大会・第47回秋田県高等学校軟式野球春季大会

軟式野球	八橋・協和球場	二回戦　秋田6－3大曲工業　準々決勝　秋田4－6秋田中央（ベスト8）
軟式野球	水林球場	一回戦　秋田1－2秋田商業

〈柔道部〉

「それまで。」

審判の言葉と同時に歓喜の声が上がった。その中で一番喜んでいたのは、佐藤信英監督でした。平成二年以来夏の全国大会から遠ざかっていただけに、その嬉しさは人一倍だったのでしょう。昨年のこの大会では県内に敵無しと言われたほどの最強チームで試合に臨みましたが、団体戦は三位、個人戦では二位や三位などが続き、一人も全国大会に出場できませんでした。その悔しさをバネに、今大会での優勝を目指してどれ程の練習を積んだだろうか。秋大生との練習、他県への遠征など、毎日厳しい練習でしたが、今大会の優勝で、それら全ての成果が出ました。試合後監督が、「今までやってきたことは間違いじゃなかったんだ。」と言いましたが、まさにそのとおりでした。

全国大会までの残り少ない日数の中で、全国の強豪と互角以上の試合ができるように一生懸命練習に励み、上位を目指したいです。

八月八日～十一日
茨城県鹿嶋市

インターハイ全国大会に向けて

〈山岳部〉

「行く道は不安を与え振り返る道は自信を与える」とある山男が言っていた。実際苦しくても最後まで登りきった。山々は自分達に自信を与えてくれたし、山での経験はこれからも自分達を大きくするだろうと思う。

去年の全県総体では準優勝でインターハイ出場を逃した。言葉では言い表せられないくらいの悔しい思いをした。でもこの悔しい思いと、絶対に優勝するんだ、という執念が僕達を優勝に導いたのだと確信している。また柘植先生、利正先生をはじめとした色々な人の支えがあったからこそ成し得たことも確かだ。

インターハイは三年生にとって勝っても負けても最後の大会だ。やるからには全国のトップに立って帰ってきたいと思う。

八月二日～六日
茨城県大子町・里美村・水府村

〈放送部〉

放送部での三年間、本当にあっと言う間でした。けれども、後輩の姿を見るたびに、まだ慣れずにあくせくしていた頃を、昨日のことの様に思い出します。初めての連絡放送、初めての大会など、驚きと緊張の連続でしたがいつの間にか最後のときを迎えようとしています。最後というのは寂しいものですね。でも、その分だけ「この大会にすべてを懸けよう！」という気持ちは、過去のどの大会よりも強くあります。全国の壁の厚さは去年身にしみて感じてきましたが、今年はそれに臆することなく、力を出し切ってNHKホールに秋田高校放送部を響かせてきます。

七月二十二日～二十五日
東京都渋谷区代々木

〈新聞部〉

第二十六回全国高等学校総合文化祭神奈川大会新聞部門に、山方遙（三年）と伊藤絵里奈（二年）の二名が参加することになりました。新聞の場合、前年度の全県新聞コンクールで三位内に入賞した高校が、翌年の「高総文」への出場資格と全国コンクールへ出品することが認められます。今回が初めての参加となりますが、全国の高校生とともに横浜で取材活動し、意見交換することを楽しみにしています。自分達にはなかった技術や視点を少しでも身につけられるように積極的に交流し今年秋のコンクールでその成果が生かせるよう頑張りたいと思います。

八月七日～八月九日
横浜市開港記念会館

柔道部 全国選手権出場

平成十四年三月二十一日、日本武道館にて行われた全国高校選手権大会に柔道部が出場しました。一回戦は比叡山高（滋賀）に二人残しで勝利。二回戦東海大相模高（神奈川）に二人残しで敗れたものの、選手達は存分に実力を発揮、秋高らしい健闘ぶりでした。

会場には東京OB会員や北林照助柔友会会長にも応援に駆け付けていただきました。紙面を借りてお礼申し上げます。

会務事項報告

3・26　大潟支部総会
31　追分三叉路支部新入生歓迎会
4・6　八郎潟支部総会
8　秋高入学式
19　企画行事委員会
5・7　校史委員会
8　当番年次会議
10　財政委員会
13　広報委員会
15　名簿委員会
22　会計監査
24　秋高東京同窓会
29　大曲支部総会
6・6　役員会
7　宇都宮支部総会
13　施設委員会
17　校史委員会
18　鹿角支部総会
27　理事会
28　東肥羽城会
7・20　同窓会だより68号発行

編集局

▼一般会計では「だより」の年三回の発行に一番多くの予算が計上されていることからも内容の充実に務めたい。が、専門の記者が取材に当たるわけではないので、情報の少ないことが難点となっています。▼事務局にはコンピュータがあり、ホームページも開いています。「だより」は読むけど寄稿はどうもと思っている会員も多いようですが、形式にとらわれず、ちょっとした話題、最近感じたこと思ったこと、近況などEメールで送って欲しいと思っています。アドレス：aki-doso@cna.ne.jp▼「だより」の編集・校正については、新聞・放送の用字用語に準じていますが、誤りなどは、随時、ご指摘・ご指導をお願いいたします。

哀悼（敬称略）

謹んで哀悼の意を表します

13年
4月　石田　雅彦S34
5月　諸岡　弘T14
石田孝二郎S4
7月　宇野　晴作S42
9月　亀井　暢之S28
鈴木　鶴雄T14
10月　松淵　曠S36
11月　嵯峨勝太郎S5
加賀谷隆治S20(5)
12月　境田　典雄S8
大浦　健一S12
貝田　隆S22

14年
1月　小原　一二T14
飯塚友二郎S12
佐々木　博S25
篠田　亮S36
2月　進藤　行雄S22
田口　悦男S20(4)

3月　松沢　純一S16
小林　一二S29
小松　恒信旧職
佐藤　吉治S13
月泉　悦良S20(5)
荻原　昭雄S20(4)
大竹　毅S10
4月　吉武　幸夫S20(4)
加賀谷力司S9
細谷　藤雄S29
竹屋直太郎S42
上法　瑞男S31
青池　晃S18
熊谷　義一S11
菅原　基S15
藤沢盛之助S9
松崎　英郎S12
5月　越前　正幸S39
中島　達郎S34
菊地　杜夫S6
大井　健S27
6月　長野　昭一S33
佐藤　民治S11
笹尾　弘S10
五十嵐貞夫S29